

No.218

2018年
8月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 8月30日(木)まで

★メイン展示

『夏休みに読んでほしい本』

いよいよ夏休み。図書館でも、「夏休みに読んでほしい本」と題して、「小学校低学年向け」「小学校高学年向け」「中高校生向け」のコーナーを設けて展示を行っています。ぜひお越しください。



●メイン展示図書(抜粋)

「てではなそう」・「ぼくの草のなまえ」・「動物のおじいさん、動物のおばあさん」・「世界にひかりをともした13人の女の子の物語」・「ルリユールおじさん」・「蹴りたい背中」

坂本図書館でオーテピア高知図書館の本を借りることができます！



坂本図書館で取り寄せたい本を申し込んでください。最短2～3日で本が図書館に到着します。

送料は無料です。

※到着までに日数がかかる場合や取り寄せできない本があります。

★サブ展示

夏休み！やってみよう！

『観察・実験・工作・自由研究』

『戦争を読む』

今回のサブ展示は2つ。夏休みにちなんで、観察や自由研究に関する展示が1つ。そしてもう1つは終戦にちなんで「戦争を読む」です。



●サブ展示図書(抜粋)

「ヒマワリのかんさつ」・「身近なものでできる自由研究かんたんじてん」・「ぼくは戦争だいきらい」・「8月6日のこと」

《中学生の職場体験学習》

小筑紫中学校と三原村立三原中学校の生徒さんが職場体験学習に来てくれました。本の整理や貸出・返却作業などを2日間にわたって真面目に取り組んでくれました。



小筑紫中学校



三原中学校



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

つくってあそぼう！

吉井潤／柏原寛一 著
青弓社

「本と一緒につくってあそぼう！」をテーマに、関連する本に沿って身近なもので作って楽しむ子供が飽きない工夫満載の一冊!! みんなで一緒にワイワイ楽しめるものから、興味をそそる科学実験の数々まで、家庭でも簡単にできる工作をカラー写真とともに紹介しています。

(樫田)

(一般)

不在

彩瀬まる 著
角川書店

私はいったい誰なんだろうと思っていた明日香が、疎遠だった父からの「明日香を除く親族は屋敷に立ち入らないこと」という不可解な遺言により、踏み入れた洋館で見つけたものとは？

洋館で出会った男の子は誰なのか？

さまざまな人の思いを知り、父の生き方を知り、明日香自身の生き方を探っていくそんな一冊です。

(尾崎)

(児童)

実験・観察大図鑑

ロバート・ウィンストン 著
新星出版社

科学を学ぶ大きな魅力は生き物について理解できるようになること。私たちの家の周りにある庭や公園、森の中は科学を学ぶのにもってこいの場所です。

この本では、土を使わずに植物を育てられる装置の実験や、蝶を集めたりミミズを観察したりといろいろなやり方、作り方が紹介されています。

夏休みに大人の人と一緒に実験や観察を楽しんでみませんか？

(岡村)

(児童)

サブキャラたちの日本昔話

斉藤洋 作
偕成社

浦島太郎・桃太郎・金太郎は誰もが知っている昔話。しかし、考えながら読んでみると、不思議な事柄がいっぱい。

例えば、浦島太郎のカメは何者？桃太郎のイヌ・サル・キジは、なぜきび団子一つで鬼退治に？どうして子どもの金太郎がクマに勝てたの？など。こうした物語の中では深く語られなかった背景が、作者がサブキャラたちから聞いたという形で明らかに！

斉藤洋ならではの不思議ワールド全開の一冊です。

(山口)

わたしも歩けば犬なみに棒に当たる 松沢まり子

わたしも歩けば犬なみに棒に当たる。

前回の拙作「さくら随筆」で書いた新人店員さんのことを覚えていらっしゃるでしょうか。後日、その店員さんと電話で話す機会があった。店員さん「松沢さん、宿毛ですよ」（前回会員名簿とやらに住所を書いたのだ）（お、ちゃんとスクモって読めてる。読めない人多いの）わたし「はい宿毛です」店員さん「私、宿毛出身の友達がいるんですよ」わたし「え～～～～！」

銀座の真ん中のビルの中のブティックでの話だ。もうびっくり、の一言。彼女の宿毛出身のお友達は結婚されてフィリピンにいるそう。

銀座に親近感を持ったわたしは（まあ昔住んでいた東京をあとにする時、最後に歩いたのも銀座だったんだけど）7月の出張で品川の会のあと銀座にちょっと泊まることにした。東京のお友達にも会う予定だし。宿毛の友人のいる店員さんにもお会いしたいし。たぶんセールをしているし。

さて、宿毛では自由気ままな時間は夜中くらいしかないわたしだが、ここでは超久しぶりにウィンドウショッピング！なハートマークいっぱいのアタマでホテルを出たら、ホテルの隣のビルの9階に数人の占い師の写真の立て看板を見て、占い好きなわたしはふらふらと引き寄せられて狭いエレベーターに乗った。外は暑いし（37℃）お店は11時からしか開かないし…と自分に言い訳しつつ。受付の男性はぶっきらぼうな感じ。誰にしますか？とおっしゃるのでわたしより年配の女性の方をお願いした。占い師さんが奥の方から出てこられて部屋に案内された。小さな窓からビルが見える。机の上には水晶。おお。まさに占いですね。

世間話を皮切りに占いが始まるのだが…

占い師さん「お客様はどちらから？」わたし「高知県です。ちょっと出張で」（いや今日は仕事終わって本当は遊びなんですけど）占い師さん「わたし愛媛なんです」（ええ?!）わたし「愛媛なんですか〜」占い師さん「宇和島なの」（ええ〜近っ）わたし「わたし宿毛なんです」占い師さん「えー！」

先日豪雨では彼女のご家族の方のお家が浸水されたとかでお悔やみ申しましたら宿毛市も大変でしたねとお悔やみをいただきました。自然災害は他人事じゃありません。

その方とは共通な方が四万十市におりました…。ね。犬も歩けば棒に当たりませんか？

それにしても東京の真ん中でそういう方たちとお会いしたのって面白くて仕方ありません。学

生の頃、原宿で道すがら高校の同級生に偶然会ったこともあるけれど。

さて今日は久しぶりに夢中になって読む本があった。原田マハさんのエッセイ「やっぱり食べに行こう。」だ。お風呂の中まで持ち込んだ。ちょっと前に京都の丸善で新刊本コーナーで買った。（もう久しぶりの丸善で晩御飯を食べるのも忘れて日本の本と洋書を見回った。文房具も!）この作者が小説を書くにあたり取材したフランスやイギリスやスペイン、日本等での食べもののエッセイで食いしん坊のわたしは楽しくてしょうがない。読んでいて、うんうん、同感。フランスのパンは本当においしいよね。麦や水と空気の乾燥や諸々の事情が重なりあうんだと思う。イギリスの紅茶のように。硬水とか。イギリスで飲むお茶はどこでも美味しい。駅で売ってたりするのも家庭でも。などと考えながら読むとお腹が空いてくる…。それにイギリスとフランスに行きたくなった。ロンドンに一泊してロンドンから2時間くらい南へ電車に揺られて前にいたホームステイ先を訪ねてアッシュフォードからユーロスターに乗ってパリに行く。いいな。わたしのいた頃はちょうどユーロトンネルを作っている時だった。思えばだいぶ前の話だ。

エッセイの中に「あなたは何の生まれ変わりですか？」と作者は友人たちに聞くとあった。作者は牡蠣の生まれ変わりで、友人はネギだとかマカロンだとか。わたしは何の生まれ変わりだろう？と考えたら、ラザニアか桃に違いないという結論に達した。仕事で疲れたらラザニアや桃を食べると効果抜群なのだ。本当に幸せになる。ラザニアはミートソースとホワイトソースが何層も重なったふわふわをフォークで切って口に入れたとたんにもう幸せ感いっぱい。桃は昨今高価なのでなかなか買ってまで食べようとはしない。極限状態になると食べるのです。（何やそれって話ですが）でもこの季節は毎日食べたい。昔イギリスの田舎にいた頃、ホームステイ先のおばさんがたまに桃を買って来てデザートに出た。彼女たちは果物は洗わない。そのままがぶり、といくのである。町を歩く人たちもリンゴやナシに買ったままかぶりついて歩いていた。日本的わたしは「うーん、洗いたいな〜」と思いつつ郷には従えて、おばさんのするように、フォークで一切れ切ってがぶり。皮ごと食べるのだ。その習慣は今でも変わらない。やはり洗ってから食べるけど。日本人の生まれ変わりはアライグマかもしれない。桃ばかり洗って食べているアライグマを見たらきっとわたしの生まれ変わりなのでたまにラザニアもあげて可愛がって下さいね。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「学校図書館で役立つレファレンス・テクニク」 齊藤誠一
- 1 「倭姫の命さまの物語」 海部やをとめ
- 2 「原爆 -広島を復興させた人びと-」 石井光太
- 3 「アドラー式子育て家族を笑顔にしたいパパのための本」 熊野英一
- 4 「絶望を希望に変える氣の力」 中川雅仁
- 5 「なぜあの人のシャツはパリッとしているのか」 読売新聞生活部
- 6 「世界一高価な切手の物語」 ジェームズ・バロン
- 7 「大家さんと僕」 矢部太郎
- 7 「敗れても敗れても」 門田隆将
- 8 「女のことは男のことは」 小林祥次郎
- 9 「空飛ぶタイヤ 新版」 池井戸潤
- 9 「万引き家族」 是枝裕和
- 9 「送り火」 高橋弘希
- 9 「地に滾る」 あさのあつこ
- 9 「能面検事」 中山七里
- 9 「燃える波」 村山由佳
- 9 「本性」 伊岡瞬
- 9 「人生百年時代の『ころ』と『体の整え方』」 五木寛之
- 9 「ブルーハワイ」 青山七恵
- 9 「風に恋う」 額賀滯
- 9 「人生の値打ち」 曾野綾子
- 9 「文芸はた 第4号」 文芸はた編集委員会

※左側の数字は図書の分類を表しています。

0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「こだわっていこう」 村上しいこ
- 「世界にひかりをともした13人の女の子の物語」 チェルシー・クリントン
- 「こうえんのおぼけずかん -じんめんかぶとむし-」 齊藤洋
- 「十年屋 -時の魔法はいかがでしょう?-」 廣嶋玲子
- 「ふたりはとっても本がすき!」 如月かずさ
- 「実験・観察大図鑑 -科学のトビラを開く!-」 ロバート・ウィンストン
- 「泥」 ルイス・サッカー
- 「ラストで君は『まさか!』と言う 悪魔のささやき」 PHP研究所
- 「ヨッチちゃんのよわむし」 那須正幹

絵 本



- 「おともだちたべちゃった」 ハイディ・マッキノン
- 「ふねのとしょかん」 いしいつとむ
- 「ぼくにまかせて!」 デイヴィッド・ウィーズナー
- 「みえるとかみえないとか」 ヨシタケシンスケ
- 「シルクロードのあかい空」 イザベル・シムレール
- 「すいぞくかんのおいしゃさん」 大塚美加
- 「この計画はひみつです」 ジョナ・ウィンター
- 「義経千本桜」 吉田愛
- 「このいえもむかしは」 ジュリー・フォリアーノ
- 「ゴトガタトラック」 古賀充

★このほかにもたくさんの図書が入っております。

図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 は休館日

ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp